

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和 7 年度 第 2 回佐渡市行政改革推進委員会
開催日時	令和 7 年 10 月 15 日（水）13:30～15:00
場所	佐渡市役所第 1 庁舎 1-201 会議室
会議内容	1 開会 2 あいさつ 今本会長 3 議事 1) 現計画の再検証 2) 新計画について 4 報告事項 佐渡市人材育成基本方針について 5 その他 6 閉会
会議の公開・非公開 （非公開とした場合は、その理由）	公開
出席者	《行政改革推進委員》（6 名） 池 倫子、今本 啓介、桑原 康彰、西尾 真治、野口 忍、本間 和幸 《事務局》（3 名） 総務課長補佐 金子 一生 総務課行革推進係 係長 熊谷 知樹 主事 頓宮 浩明
会議資料	資料 1 -持続可能な行政運営プラン（取組事項シート） 資料 2 -新旧対照表-持続可能な行政運営プラン 資料 3-佐渡市人材育成基本方針
傍聴人の数	0 人
備考	
会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
A 委員	第 2 回佐渡市行政改革推進委員会を開始。 議事 1 の「現計画の再検証」について事務局の説明を求めます。
頓宮主事	資料 1 について、各委員より意見を求めたい 9 項目について、現状を項目別に説明。 取組事項「法務局の登記情報と課税システムとの連携」を説明。 取組事項「携帯端末機活用による農地確認事務の効率化」を説明。 取組事項「佐渡市民サービスカードのデジタル化」を説明。

	<p>取組事項「性能発注による下水道処理施設の民間委託」を説明。</p> <p>取組事項「公共施設等総合管理計画に基づく施設マネジメントの推進」を説明。</p> <p>取組事項「行政評価を活用した事務事業の見直し」を説明。</p> <p>取組事項「公債費の抑制と、将来負担の軽減化」を説明。</p> <p>取組事項「市民にわかりやすい財政情報の公表、財務の透明性を確保」を説明。</p> <p>取組事項「突発的な財政需要に対応するため、適正な基金残高の確保」を説明。</p>
A 委員	各委員に、議事 1) 現計画の再検証 について、取組事項ごとに質疑を求めます。まず、「法務局の登記情報と課税システムとの連携」について、質疑を求めます。
E 委員	法務局の登記情報と市の課税システムの連携が完了している市町村がありますか。また、そういう事例があれば参考にしていますか。
熊谷係長	全国の市町村で取組が早いところは連携が済んでいます。佐渡市については、全国共通システムの標準化が終わった後に進めるスケジュールに変えたところです。
E 委員	既に連携ができている市町村があるのであれば、それほど難しいことではないのではないのでしょうか。
熊谷係長	現時点では、佐渡市の課税台帳と法務局の台帳で整合性を図っている段階です。
E 委員	連携が完了した後の佐渡市の固定資産税の増減について見込みを把握していますか。
熊谷係長	確認できておりません。台帳をしっかりと精査した上で、法務局との早期連携に向けて進めていきます。
A 委員	連携により固定資産税分の市税収が増えるというより、徴税費用が下がるのが重要です。
D 委員	この目標は令和 8 年度に本格導入ということになっていますが、来年度の導入が予定どおり進みそうだという見込みで理解してよろしいのでしょうか。
熊谷係長	令和 8 年度には導入できるという見込みです。
D 委員	実施内容のところで、導入時期が遅れていますと書かれていますが、導入自体は令和 8 年度目標で、それが見込みどおり進みそうだとすることであれば、「遅れている」という表現はなくてもよいと思いました。
A 委員	「携帯端末機活用による農地確認事務の効率化」について質疑を求めます。
E 委員	農地確認は、佐渡市全域が終了したという話でしょうか。それとも、順調に行っているという話でしょうか。
頓宮主事	農地確認の調査を毎年 6 月から 8 月にかけて行っており、現在は調査後の取りまとめを行っている状況です。

E 委員	耕作放棄地の調査方法について、佐渡全域で毎年行っているのでしょうか。それとも、区域ごとに年度に分けて調査を行っているのでしょうか。タブレット端末の導入台数を当初予定より減らして、成果が毎年出るのであれば好事例の一つになるのではないのでしょうか。
熊谷係長	農業委員会事務局と相談し、記載内容を考えます。
A 委員	「佐渡市民サービスカードのデジタル化」について質疑を求めます。
F 委員	年度別の行動指標に佐渡汽船との協議と書いてありますが、どのぐらいの頻度で行われていますでしょうか。
熊谷係長	佐渡汽船との協議は四半期に 1 回程度行われております。
F 委員	電子化された佐渡市民サービスカードで簡単に予約ができるようになると便利だと考えています。早めに方向性を決めた方がよいです。
C 委員	市民の中には紙ベースのサービスを利用している人が多いのではないのでしょうか。デジタル化が進むと利用が難しいと感じる人が増えるのではないかと懸念しています。こうした点について考慮されていますでしょうか。
熊谷係長	20 代から 50 代の多くの方はスマートフォンを保有しており、アプリで更新ができるようになれば、佐渡市民サービスカードの再発行の業務時間を大きく削減できる可能性があります。 しかし、小さなお子さんや団体利用、高齢者の方などにはカードが依然として必要と想定されます。
E 委員	佐渡汽船のデジタルでのチケット購入で、マイナンバーカードの利用は個人情報心配なため、現在の佐渡市民サービスカードでの利用が良いのではないのでしょうか。
A 委員	マイナンバーカードを利用することを国が推奨していますが、佐渡汽船の乗船チケットを購入するために、マイナンバーカードを利用することは、抵抗感があると思います。アプリに関しても、全ての方がスマートフォンを利用してチケット購入ができるわけではないため、現状の取組で仕方ないと思います。
A 委員	「性能発注による下水道処理施設の民間委託」について質疑を求めます。
E 委員	太陽光パネルを設置して電気代を節約する等、維持管理経費を削減する取組が不十分に感じられます。また、他市では下水の汚物を肥料化する再利用の取組が行われており、佐渡市も同様の努力をすべきです。提案として、そういった取組を盛り込んではいかがでしょうか。
金子補佐	職員数の削減や委託手法の見直しを進めているものの、まだ不十分と認識しており申し訳なく思っています。その中で、さらにコストを抑える方法を検討していく必要があると考えており、委員の意見を担当課にもお伝えします。
E 委員	市民に見える経費削減が求められますが、人件費の削減は最終手段です。佐渡市として経費を削減する一定の努力をすべきです。
A 委員	今回は、下水道処理場の包括的民間委託の取組ですが、施設の老朽化の問題

	はどの程度ありますでしょうか。
熊谷係長	下水道処理場は比較的新しい施設が多いため、老朽化の問題はまだ先と考えています。一方、上水道施設の方は老朽化が著しく進んでいます。
A 委員	下水道処理場について、老朽化は今のところ問題ではないですが、将来的には考慮する必要があります。また、人口減少を背景に下水道処理場の統廃合についても検討する必要があると感じています。統廃合について、どのような計画がありますでしょうか。
金子補佐	地域ごとに浄水場が多くあり、それぞれが異なる手法で運営され、コストがかかっています。例えば一つにまとめたりすれば、維持管理経費が削減できる可能性があります。
A 委員	上水道の老朽化について、設備更新を図る必要があります。その際に、今後の再編についても検討する必要があるのではないかと感じました。
E 委員	下水道の長期計画について、人口が減少しているのにもかかわらず見直しが行われていないように思います。そのため、計画の見直しが必要ではないでしょうか。
金子補佐	不採算地域への投資は控える方向で進めているものと認識しています。
A 委員	「公共施設等総合管理計画に基づく施設マネジメントの推進」について質疑を求めます。
A 委員	床面積を毎年同じ比率で削減する計画について、具体的にどのように削減していくのかという方向性が不明瞭です。
金子補佐	公共施設の数減らす見直しが必要だと考えています。今後の取組について財産管理課とも相談します。
A 委員	「行政評価を活用した事務事業の見直し」について質疑を求めます。
D 委員	行政評価を行って改善につながった事業数が少ない傾向があります。評価を行う際には、改善につなげていく方向でやるべきです。効果的に機能する評価方法により、改善につながるような形で進めてください。
金子補佐	経費や手法の見直しの余地はあると思いますので、提言にはもう少し力を持たせることが必要なのではないかと感じています。来年以降は、各課に対して意見をしっかりと伝え、継続中の案件についても、流れてしまわないように対応していきたいと考えています。
D 委員	大切なのは、行革サイドから言ったとおりに取り組んでもらうだけではなく、その取組が難しいのであれば、所管課側より現状に合った工夫を提案してもらい、実行性の高い改革につなげていくことが重要です。
A 委員	「公債費の抑制と、将来負担の軽減化」について質疑を求めます。
E 委員	佐渡市の合併特例債の返済について、5年後や10年後に返済しなければならない額は公表されているか。特に5年後や7年後に負債が増えるのであれば、その時の人口比で、大体の交付税交付金の額も読めたりします。
金子補佐	合併特例債の返済額につきましては、財政計画に明記されております。しか

	しながら、財政調整基金が大幅に減少しているため見直しが必要です。佐渡市行政運営改革ビジョンの中では、使用料の見直しや人件費の削減も含まれております。さまざまな方策を講じて難しい場合には、最終手段として人件費の削減を検討せざるを得ないと考えております。
A 委員	佐渡市として実質公債比率 18%以下を維持しているため、財政健全化団体には該当しませんが、今後の見直しについて、市民の理解を得るように進めていくか、抑制して他の経費をどこで削減するかを考えていくことが重要です。
A 委員	「市民にわかりやすい財政情報の公表、財務の透明性を確保」について質疑を求めます。
B 委員	ホームページ、市報へ公表している資料は、どのような内容で公表をしていますか。
熊谷係長	表とグラフで財政情報を表した資料を公表していますが、言葉の意味を十分に伝えることができていません。
B 委員	表やグラフだけでは自分たちの生活への影響が理解しにくいです。ホームページなどで財政情報が提供されていても、データの見方がわからない人には伝わりにくいので、市民が理解しやすいような伝え方が求められていると感じています。
金子補佐	ホームページで公表している財政情報は、行政用語が多く使用されているため、市民にとって分かりにくい状況がございます。財政状況を分かりやすく伝えるために、改善のご意見を反映させたいと考えています。
B 委員	財政情報の提供について、自分たちの生活にどのように反映するのかが分かるとよいと思います。
金子補佐	消防費は理解しやすいと思いますが、他の予算項目については伝え方が難しいと感じています。伝える難しさも含めて、財政として危機感は感じているということで理解はしております。
A 委員	自主財源が1割しかないというのはもっと言ってもいいのかなという気はします。離島交付税がいつまで続くかよく分からないところもありますので、できるだけ自主財源でやっていこうということを言ってもよいかと思います。
A 委員	「突発的な財政需要に対応するため、適正な基金残高の確保」について質疑を求めます。
A 委員	災害に備えて積み立てをしていかないといけないということでしょうか。
金子補佐	今回の豪雨災害では5億円が充てられました。25 億円以上の基金残高の維持というのは、災害が2回発生しても対応できるように、積み立てをしていかなければならないということです。
B 委員	災害が発生した後に使うための 25 億円なののでしょうか。それとも、災害予防のための予算が別にあったりするのでしょうか。
金子補佐	通年で計上をしていますが、先ほどの水道の老朽化についても、事前に定期的なメンテナンスを行うことで、最終的な支出を減らす取組が理想ですが、経費

	的な面から実施が難しい状況です。
B 委員	災害に備えて適切な準備が重要ですが、行政がお金を使わなくても、危機管理についての情報を広い範囲で周知をすることで、災害の被害を抑えることができると思います。
E 委員	今回、豪雨災害として 5 億円で済んだのは激甚災害に指定されたためですが、激甚災害に指定されない災害のリスクについても担当課で検討してほしいです。特に、雪や竹の影響による災害のリスクは、補助金が出ない場合には全額負担になる可能性があります。職員のリスク管理の意識徹底が重要です。お金をかけずに住民に管理を促す方法として、持ち主に手紙を送るなどの事前対策が必要で、特に管理が行き届いていない場合の防止策が求められます。各支所や防災対策の活用を通じて、リスクマネジメントの意識を高める取組を期待しています。
金子補佐	平成 29 年の水道管凍結の経験を受け、その翌年からアナウンスを強化した結果、以降は問題が発生しておりません。他にも、ハード面における事前の対策や要望など、多くの側面があると思います。こうした考えは、しっかりと担当課に伝えます。
金子補佐	会議が予定時間を超過していたため、議事) 2 新計画についての質疑、次第 4 報告事項の人材育成基本方針の説明及び質疑については、次回委員会に持ち越すことを説明。
A 委員	議事 2) 新計画について、事務局から説明を求めます。
頓宮主事	資料 2 について修正した箇所を説明。
熊谷係長	今回、プランを大綱に変更した理由を補足して説明。
A 委員	次第 5 その他について、事務局から説明を求めます。
熊谷係長	その他として、次回第 3 回目の行革委員会の開催日程を説明。
A 委員	以上で、第 2 回佐渡市行政改革推進委員会を終了します。